



会員寄稿 図書館から世界につながる

図書・研修課 菊池 薫

大洲高校図書館は、本年度寄贈図書を含め約 270 冊の図書を受け入れました。これは同規模の高校としてはとても多いのではないかと自負しております。館内も模様替えを行い、利用者がより多くの本を手にしやすいように工夫を重ねています。令和3年度の生徒の平均貸し出し冊数もわずかですが昨年より上昇しました。特に一年生の貸出冊数が多く、嬉しい限りです。

近年、学校図書館の役割として、大きく2つ「生徒の知識欲に応える資料の提供」と「読書の促進」とが考えられています。ところが、前者の役割はインターネット、特にスマートフォンの出現により特に小さくなっていると思われがちです。どんな事項でも大概「ウィキペディア」を見れば説明が載っています。（正確かどうかはまた別の話ですが。）後者の「読書」もインターネットには無料で楽しめる文章も結構あつたりします。では、現在、パソコンやスマートフォンさえあれば、図書館を利用するメリットはないのでしょうか。

私は、インターネットにはない図書館の大切な役割は「未知の世界に出会う」ことだと考えています。確かにインターネットは全世界とつながっていて、どんな情報にもすぐに接することができるオープンな状態に見えます。しかし、最近よく話題にされていますが、インターネットの検索サイトのアルゴリズムは、ユーザーの検索歴に基づいて情報を構造化しています。ユーザーが見たい情報をAIがあらかじめ推定し、それが優先的に画面に出てくるような仕組みになっているのです。つまり、スマートフォンは自分の関心のある記事にしかつながらないということになり、知らぬ間に情報を取捨選択された狭い世界にしかつながらないこととなります。スマートフォンで覗ける世界は、居心地がよくて魅力的ですが、案外狭い既知の世界なのです。それだけで未知の世界に出会い、世界を広げるのは案外難しいのではないのでしょうか。そもそも「出会い」がなければ、世界が広がりようがありません。

そこで、利用してほしいのが図書館です。本棚をうろうろして本の背表紙を眺めていると、自分が初めて知る言葉や、自分が検索しようとも思わなかった事項が入った題名の図書に気づくはず。その本を手にとった時、未知の世界の入り口につながります。自分が手に取ったその本がもしかしたら生徒の皆さんの未来を変えていくかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えてこない現在、外の世界に触れる機会は少なくなり、個人の世界も通常より狭くなりがちです。今が物足りなくて、自分の世界を広げてみたいと思っているなら、図書館を有効活用して、未知の世界につながってみてほしいと思います。新刊図書が最大3冊、2週間まで借りられます。図書館では来年度も生徒の皆さんが来てくれることを楽しみに待っています。

